

「学力向上シンプルプラン」(R6島根県学力調査結果より)

※校内確認(入力)シート

松江市立意東小学校

【平均正答率】 ※全国値: 全国の受検集団(学校・自治体)が毎年同じ傾向を示すことを利用して推定した値

【平均正答率】		国語	算数
5年生	本校	54.5	47.9
	島根県	65.0	55.9
	全国値	71.9	62.2

【平均正答率】		国語	算数
6年生	本校	59.4	61.3
	島根県	62.9	63.7
	全国値	69.9	67.3

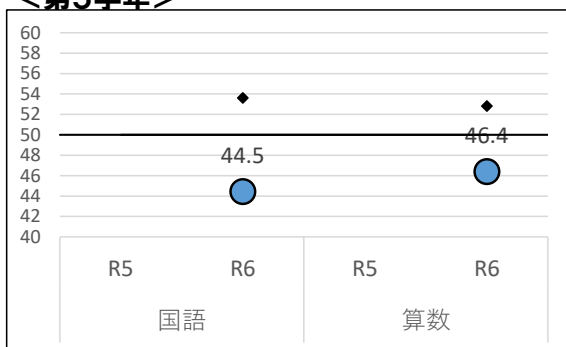
※未学習問題を登録した学校については、該当問題を除いた全国値が表示されます。

【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第5学年		44.5		46.4
全国値		53.6		52.8

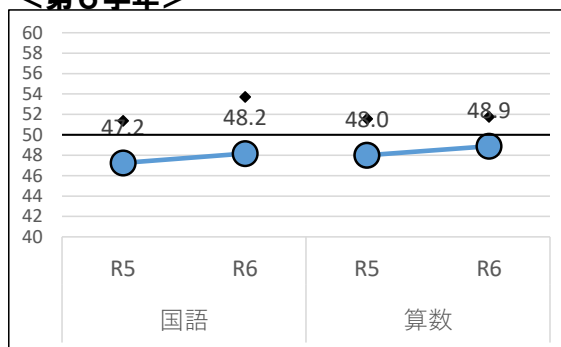
【偏差値】	国語		算数	
	R5	R6	R5	R6
第6学年	47.2	48.2	48.0	48.9
全国値	51.4	53.7	51.6	51.8

※【偏差値】
島根県の平均正答率を「偏差値 50」としたときの換算値 (平均からどれくらい差があるかを表した数値)

<第5学年>



<第6学年>



【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題 (○成果／●課題)

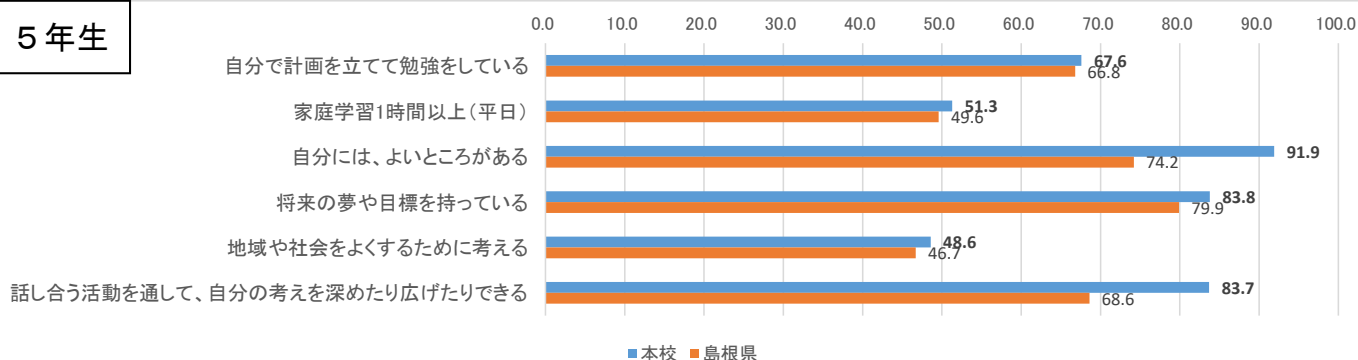
	5年生	6年生
国語	○漢字を読む力は、比較的定着している。 ●目的に応じて、文章の情報を整理する力が弱い。 ●指定された条件に合わせて文章を書く力が弱い。無回答率も高く、書くことへの苦手意識が高いことや、時間配分ができていないことが考えられる。	○インタビューの内容を聞き取る問題の正答率が高く、話の内容を捉えて聞き取ったり、聞こうとする意図に応じて内容を捉えたりする力が付いている。 ●言葉の学習の正答率が低く、熟語の成り立ちや語句の由来などについての理解があまりできていない。 ●昨年度の結果と比べると、正答率は上がり無回答率は下がっているが、まだ指定された条件に合わせて文章を書く力が弱い。
算数	○小数のかけ算、わり算の計算は正答率が高く、力が定着している。 ●ほとんどの問題において県の正答率を下回っている。文章の意味を正しく理解することが難しく、問われている内容が理解できないことや、計算はできて、なぜその立式になるのか説明できないなどの課題が考えられる。	○分数のかけ算や、文字を使った式の計算の力は比較的定着している。 ●計算することはできて、生活場面と結び付けて考えたり、説明したりする力に課題がある。 ●角柱の体積を求めるなど、基本的な公式を使って解く力が不十分である。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題 (○成果／●課題)

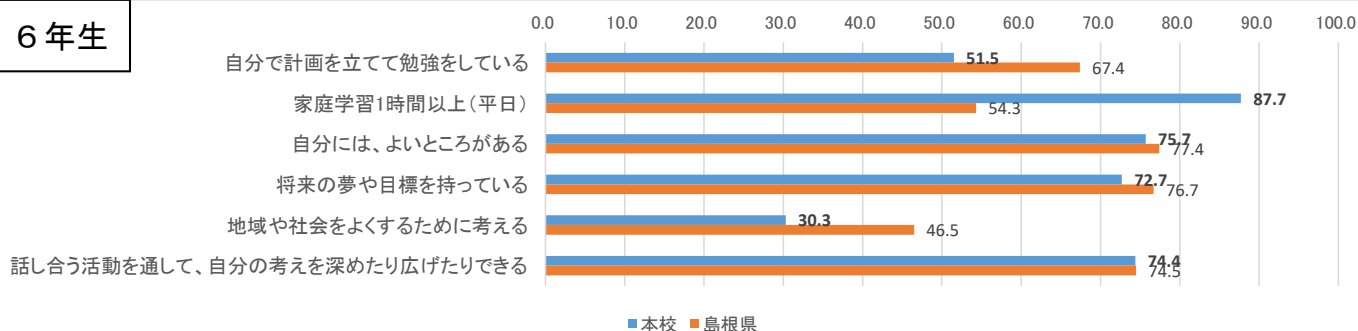
	5年生	6年生
意識	○どの項目もプラス割合が高く、自己肯定感が高く、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多いと思われる。 ●意識調査のプラス割合の高さが、学力とは結び付いておらず、どのように結び付けていくかが課題である。	○昨年度は、家庭学習1時間以上の割合が15.6%だったが、今年度は87.7%になり、家庭学習に取り組む時間は飛躍的に増加した。 ●学習時間は増加しているが、自分で計画を立てて進めることができていない児童の割合は低く、ただこなすだけになっている児童が多いのではないかと考えられる。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）

5年生



6年生



～学力向上対策の3ステップ～

（1）学力調査結果をもとにした今年度の学力向上の取組の振り返り（○：成果 ●：課題）

○6年生においては「書く」ことについての日常的な取り組みを行ってきた結果、「書く」ことに対する抵抗感は少なくなってきた。
 ○学習チェックシートを用いて毎学期ごとに、自分が学習した成果が見えるよう工夫して取り組んだ。その結果家庭学習についての意識が変わってきて、取り組む時間増加した。
 ●学習チェックシートにより学習時間は増えたが、ただこなしているだけになっている児童もいる。自分で計画を立てられるような手立てが必要である。

（2）今後の学力向上に係る改善ポイント ※取組の焦点化

- ・条件に合わせて書く、適切な言葉や漢字を使って書くなど、「書く」ことに慣れるための取組を今後も継続する。
- ・自分で考えて計画的に学習に取り組む力をつけるための手立てを考える。

（3）今後の学力向上に係る具体的な取組 ※取組の具体化

- ・「書く」ことが苦にならないように、楽しい要素も加えながら、日常的な取組を取り入れていく。（朝学習、各教科）
- ・毎月の書き取り会、計算会の取組を継続し、目標をもって取り組めるように工夫する。
- ・今年度の学習チェックシートをさらに改善し、学習の計画を児童が自分で立てることができるようし、計画と成果が具体的に捉えられるようにする。

【R6学力調査受検者数】

5年生 37 名

6年生 33 名

（欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示）